

留学生相談事例集



留学生相談事例集

東京都立大学 国際センター
留学生相談室

はじめに

この小冊子では、東京都立大学国際センター留学生相談室で実際に留学生から受けた相談事例を4つの分野（生活・在留資格・異文化・学修）に分けてまとめてあります。東京都立大学の留学生たちが、どのようなことを疑問に思い、また悩みを抱えるのかを、留学生の身近にいる教員、職員、学生によく知ってもらうことを目的に編集されています。国際センター部局競争的経費により、事例集として発行することができました。

東京都立大学の教職員と学生のみなさんが、研究室や教室で出会う留学生たちの状況をよく理解し、手助けを行うために利用していただければうれしく思います。留学生にとって「楽しく、学びやすい大学」は、他の学生にとっても居心地のよい安心できる学びの場となるのではないのでしょうか。そのような大学の環境づくりのために、冊子が少しでも役立つことを願っています。

本冊子の作成にあたっては、鈴木京子特任助教を中心に国際センター受け入れチーム（加藤由香里教授、黄美蘭特任助教、廣田耕志部門長）で議論を重ねてきました。また、綾部真雄国際センター長、大橋隆哉前国際センターにご助言とご支援をいただきましたことを感謝申し上げます。

東京都立大学 国際センター

留学生相談室（留学生受け入れチーム）

加藤由香里・鈴木京子・黄美蘭・廣田耕志

目 次

【生活編】

留学生は日本の生活でこんな心配事があります

- (1) 虫刺されの事例
- (2) 骨折の事例
- (3) 気候になじめない事例
- (4) 一人暮らしになじめない事例
- (5) アパートの家賃を滞納した事例
- (6) アパート探しの際、大学の機関保証を望んだ事例
- (7) お金が足りない事例

【ビザ在留資格 (resident status) 編】

日本の大学で学ぶには条件を満たすことが必要です

- (8) ビザ (査証) の更新ができない事例

【異文化編】

留学生は文化の違いで悩みを抱えています

- (9) カルチャーショックの事例
- (10) 結婚していないことに不安を感じている事例

【学修編】

留学生は研究室でこんなことに悩んでいます

- (11) 研究熱心でない留学生の事例
- (12) 学部の勉強と大学院の研究の区別があいまいな事例
- (13) ゼミでの言語が理解できない事例
- (14) 不登校になった留学生の事例
- (15) 指導教員とのコミュニケーションがうまくいかない事例
- (16) 指導教員から怒られる事例
- (17) 休学を考えている留学生の事例

●生活編●

(I) 虫刺されの事例：

Aさんは1週間前に大学の1号館の内側の庭で何かに刺されました。蚊だと思っていたのですがかなり腫れました。次の日に同じところを歩いていたらこうもりのようなものがとびかかってきたと感じました。すると前日刺されたところが熱くなりました。狂犬病にかかったのではないかと心配して留学生相談室を訪れました。

【解決策】

Aさんと一緒に大学の保健室に行って、刺された場所の写真を見てもらったところ、看護師さんに何かの虫なので心配することはないと言われました。また狂犬病は日本では長い間発症した人がいないので心配いらないと言われて、Aさんは安心しました。

【留学生相談室からのアドバイス】

虫のあまりいない国から来た留学生は、日本で虫に刺されたときに必要以上に心配になることがあります。大学にはスズメバチの巣もあるので、心配だったらチューターやRAの人に患部を見せてアドバイスをもらうことがいいかもしれません。どうしても心配なときは大学の保健室に行って見てもらうといいです。



(2) 骨折の事例：

Bさんは右手を骨折し、指が曲がってしまいました。検査の結果手術が必要とのことで、Bさん自身も手術を希望しましたが、日本語が得意ではないので手術の前の説明に通訳が必要になりました。

【解決策】

国際センターの留学生相談担当スタッフが病院に同行して、入院前の説明や注意事項を通訳して、Bさんは安心して入院することができました。退院の時はお医者さんがゆっくりと日本語と英語でリハビリのやり方を説明してくれたので、自分一人で帰宅することができました。

[留学生相談室からのアドバイス]

日本のお医者さんの中には英語をあまり話せない人もいますので、近くの病院やクリニックで入院や手術をするときには、チューターやRAに病院までついてきてもらうことも時には必要になります。誰もいない場合には、留学生相談室に相談に来てください。大学近くの病院でお医者さんや看護師さんが英語を話せるところを一緒に探せます。

心配な場合には、聖路加国際病院 (<http://hospital.luke.ac.jp/>) に行けば、英語の話せる医師、看護師がいて助けてくれます。

東京都医療機関案内サービスひまわり (Tokyo metropolitan medical institution information) を利用すると、住んでいるアパートや大学の近くにある病院をさがすことができます。医療機関の所在地、電話番号、診療科目、診療曜日・時間などを365日24時間案内してくれます。提供する情報は、東京都が都内の全医療機関を対象に収集しているものです。

ホームページ「ひまわり」の医療機関検索サービス

<http://www.himawari.metro.tokyo.jp/> (英語・中国語・韓国語 (2019.12.27 確認))

携帯電話用

<http://www.himawari.metro.tokyo.jp/kt/>

(受診の前に、必ず医療機関に電話等で確認をしてから受診してください)

(3) 気候になじめない事例：

Cさんは東南アジアの1年中暖かい気候の国から来日しました。ところが冬になって日本の気候が寒すぎると感じています。

【解決策】

日本ではユニクロやGUのような店で安い価格で温かい服を買うことができます。冬の寒い時には何枚も重ね着して空気の層を作ることが大事です。ユニクロのヒートテックのような温かい下着を手に入れてさらに暖かいセーターを上に着ることで冬でも暖かく過ごせます。安いダウンジャケットを売る店もあります。また外出するときにはマフラーや手袋をすることで暖かく過ごせます。

【留学生相談室からのアドバイス】

日本は夏暑く冬寒い国です。1年中暖かい国から来た人にとっては日本の冬はとても寒く感じることでしょう。けれども安めの衣料品が買えるので、暖かい衣服を着ることで寒さ対策ができます。ユニクロ、GUなどの安い価格帯の店の名前を覚えておくといいでしょう。

(4) 一人暮らしになじめない事例：

Dさんは家と学校に居場所がないと焦っていました。友人もできず学校の環境も自分が思っていたのとは違っていました。一人暮らしをしているからだと思うようになりました。母国の大学では寮に入っていたのでいつも周囲に人がいました。けれども日本に来て一人暮らしを始めると、友だちもできずずっと一人であることに気がつきました。だんだんと用事がなければただベッドに寝ているようになり、指導教員が言ったことが気になってきます。日本に来る前には大学院を出てから日本で就職しようという希望を持っていましたが、今では日本で生きていくことが難しくなったと感じています。

**【解決策】**

Dさんは大学の国際寮に入寮することを希望したので、調布の学生寮に一般枠で入居できることを伝えました。そして実際に入居することができ、いつも周囲に人がいる環境が可能になったので修士論文を無事に書くことができました。元気を取り戻して日本で就職もしました。

【留学生相談室からのアドバイス】

留学で日本に来て初めて一人暮らしをする留学生もたくさんいます。一人暮らしをすると家事を全部自分でやらなくてはなりません。掃除、洗濯、買い物、食事作りなど勉強や研究以外にもすることがあって、慣れるまでは大変かもしれません。また友達を作るのにも意外と時間がかか

るので、空き時間も週末も一人で過ごすことが多くなることもあります。日本人と友人になりにくいと感じる留学生もいます。

友人ができないときには、例えば大学のクラブやサークルに入る、自分の宗教の教会に行って学外の友人を作る、大学の旅行に参加して研究室以外の留学生と知り合いになる、SNSを使って興味のあるイベントに参加して同じ趣味の人と知り合いになるなど、様々な工夫をするといいかもかもしれません。

(5) アパートの家賃を滞納した事例：

Eさんは前年度自分のアパートで開いた飲み会で騒いだことが何回もあり、管理会社から注意を受けていました。今年は家賃を何か月分か滞納して管理会社から文句が来ていました。国際課でも留学生総合保障をすかどうかで迷っていると留学生相談室に相談が来ました。

【解決策】

Eさん、管理会社の人、国際課の職員の方と留学生相談担当者で詳しく状況を話し合いました。Eさんは数か月分の家賃を滞納していましたが、夏休みにアルバイトをしてお金を貯金して家賃の返済に回すことを約束しました。国際課職員の人、家賃の滞納を繰り返すと大学の留学生総合保障をしなくなることをEさんに伝えました。

【留学生相談室からのアドバイス】

留学中は自分でお金の管理をしなくてはいけないので、特に家賃の滞納には気をつけなければなりません。何か月も滞納すると、アパートから出て行ってくれと管理会社に言われることもあります。それでも居続けると強制退去を命じられます。そうなると国際課から留学生総合保障も

してもらえなくなります。普通は一か月先の分まで支払うので、十分に家賃を払えるだけのお金を貯金しておきましょう。

(6) アパート探しの際大学の機関保証を望んだ事例：

Fさんはアパートを探していますが、保証人が必要だと言われました。大学で保証人をやってくれるかと留学生相談室に相談に来ました。

【解決策】

Fさんは研究生だったので大学の正規留学生と認められず、残念ながら大学の機関保証を受けることができませんでした。日本人の知り合いもないということだったので、国際課でJASSO（(独)日本学生支援機構）に加入して指導教員に保証人になってもらうのがいいことを伝えました。

[留学生相談室からのアドバイス]

研究生は正規留学生ではないので、機関保証のようなサービスを受けられないことがあります。正規留学生であれば大学の機関保証を受けることができますので保証人の問題はありません。

<参考>機関保証制度：

保証料を支払うことによって法人が連帯保証人の役割を果たす制度をいいます。

(7) お金が足りない事例：

Gさんは東京都立大学に入学すれば学費が全額免除になると本国にいるときに聞いたので入学しました。しかし学費は半額免除にしかならず、学費を払うことが難しいことに来日してから気がつきました。アルバイトをし始めたばかりですが、家賃が4万円でお金が足りません。

【解決策】

残念なのですが、大学でお金を貸してくれるところはありません。アルバイトをする、本国の両親にお願いしてお金を送ってもらう、親類からお金を借りて学業を続けるなど選択肢は限られています。アルバイトですべてをまかなうのは大変なことです。アルバイトをするのならば、長期休業中にまとめてやるといいかもしれません。

[留学生相談室からのアドバイス]

学費免除は多くの場合半額免除がもらえるようです。留学が決まったら学費免除に応募してみてください。しかし残りの半額は払わなくては行けないので、それを計算に入れて留学費用を考えるのがよさそうです。東京都立大学周辺のアパートは安くても35000円以上します。食費や光熱費、通信費も計算に入れましょう。

●ビザ・在留資格 (resident status) 編●

(8) ビザ (査証) の更新ができない事例：

Hさんは研究生の身分ですが、滞在2年でビザの更新ができませんでした。なぜかわからないです。

【解決策】

研究生 (学部・大学院) が「留学」の在留資格で活動できる期間は、他大学での研究生在学期間を含め、特別の事情のある場合を除き、「最長2年まで」となっているため、それ以上は滞在することができないのです。いったん日本を離れて再度新しいビザで来日する必要があります。



[留学生相談室からのアドバイス]

研究生でなくても在留期間を1日でも過ぎると、不法滞在として扱われてしまいます。くれぐれも注意し、早めに在留期間更新手続きを行う必要があります。ビザの更新は出入国管理庁 (東京出入国在留管理局) に行き行うことができます。また国際課に行けばビザの相談に乗ってくれますので、心配な人は国際課で尋ねてみるといいでしょう。

<参考>

出入国在留管理庁 (Immigration Bureau of Japan)

2019年4月1日より、入国管理局は廃止となり、出入国在留管理庁が設置されました。最新の情報は以下のホームページで公開されています。

<http://www.immi-moj.go.jp/index.html> (2019.12.27 確認)

●異文化編●

(9) カルチャーショックの事例：

Iさんは留学の後半はインターンシップをやるつもりで来日しましたが、健康状態が思わしくなくて帰国することにしました。来日前は日本でもストレートに言いたいことを言い受け止めてもらえると思っていたのですが、来日後はそれとはちょっと違うと思うようになりました。特に建前と本音の区別がとて嫌だと思うようになりました。人々がじっと見つめてきたり、自分を避けたり、日本語がわからないと思って失礼なことを言うことに耐えられなくなりました。また母国にいたときは朝ごはんに果物をたくさん食べていたのですが、日本で同じようにしていたらとてもお金がかかることに気がついて、みそ汁を食べるようになりました。食事が変わったら体調が悪くなっていつでも疲れを感じるようになりました。

【解決策】

異文化に入ったときに異なることに対して否定的な意見を持つことは普通にあることです。ほかの留学生が気がつかないようなことまで気がつくのは敏感だからかもしれません。でもあまりにも否定的になり、体調まで悪くなるのはよくないので、まず帰国して体調をよくすることが一番重要だと考えられます。

【留学生相談室からのアドバイス】

異文化に入ったときに、ある程度否定的な感情を持つことは自然にあることなのですが、あまりにもいろいろなことに否定的になるのはすこし危険です。否定的な気持ちが多く起こったら、なるべく早く留学生相談室を訪れて、なぜ否定的な気持ちになるのかの原因を一緒に考えて改善策を練りましょう。

(10) 結婚していないことに不安を感じている事例：

Jさんは日本に来て半年になるのですがこの頃寝付けなくなりました。研究室から帰宅するのが夜遅くなり、食事をした後友だちと電話などしてから寝ると、寝付けなくてとても疲れています。眠れない原因は、自分が29歳で結婚していないことがあると思っています。結婚していたら帰宅して話す人もいてリラックスできると思います。日本でガールフレンドができればいいのですが、言葉の問題があり寂しいと感じています。金曜日にお茶室でお祈りをするときには話す人もいますが、決定的な友人ができないと思っています。

**【解決策】**

イスラム教の教えでは、25～26歳ぐらいで結婚するのがよいとされているので、ある程度年齢が高くなると結婚していないことに不安を感じる人もいます。Jさんはその後ある留学生と交際するようになり落ち着きを取り戻しました。

【留学生相談室からのアドバイス】

イスラム教の留学生は、豚肉を食べない、ハラール食を食べるなどの食制限以外に、お祈りの時間を必要とする、肌を見せないという制限もあるのですが、結婚年齢についても心配するという点があることを周囲の人が理解しておく必要があります。都立大ではイスラム教の留学生のために国際交流会館の喫茶スペースにお祈りのためのパーティションを用意したり、食堂でハラールメニューを用意したりして少しでも居心地をよくしてもらいたいと努力しています。

●学修編●

(II) 研究熱心でない留学生の事例：

Kさんはチューターをしている日本人の学生ですが、ゼミ中に留学生がスマホをいじったり話を聞いていなかったりするのが気になっています。Lさんがチューターをしている留学生は研究室でいつもYouTubeを見ていて、研究している様子がありません。Mさんがチューターをしている留学生は日本語も英語もあまりできずに研究室にいる母国人の留学生に頼っています。

【解決策】

留学生が大学院の授業やゼミについていけない場合、本国でブローカーに誘われて研究計画書やメールを書いてもらって来日していることが多いです。来日後言葉が通じなくて授業についていけなくなって初めて周囲の人が気づくこともあります。このような場合不登校になることもあるし、うつ病に至るケースも見られます。気づかれないままに入学しても、入学後に研究が進まず必修単位を落としたり、次第に大学から足が遠のいて不登校に至る場合もあります。このような状態を防ぐには、指導する先生が研究生や留学生が応募してきた時にスカイプ面接をし、十分な日本語能力、もしくは英語能力を持っていることを確認して入学を許可する必要があります。

[留学生相談室からのアドバイス]

都立大の研究生に簡単になれるとブローカーに言われて研究生になった留学生が多く出た時期がありました。その後各部署を通じて留学生にスカイプ面接を課することが徹底されてきたからか、近年そのような留学

生が減少する傾向にはあります。しかし油断は禁物です。もし留学生がまじめに勉学や研究に取り組んでいない場合には、指導教員の先生に相談してみてください。

(12) 学部の勉強と大学院の研究の区別があいまいな事例：

Oさんは心の問題があって寝つくのが遅いと感じています。今研究をどう進めていいかわからないのです。小さいころから日本に来たかったので、周囲の反対を押し切ってきたのですが、来てから日本にいる意味が分からなくなってしまいました。研究科に帰属感が感じられません。母国の大学ではがんばりやで社会活動や部活にも参加していました。大学院にもそのような憧れを持って入ったのですが、先生が学生に関心を持っていないように感じます。なんとか居場所を見つけたいと思うのですが、先生が自分の研究テーマに興味を持ってくれない気がしてだんだん自信がなくなってきました。またゼミのプレゼンの時先生が怒った感じがしました。先生に否定的に言われると、自分のやり方、価値観が否定されたと感じてしまいます。

【解決策】

母国の大学の学部では先生の言うことを聞いてノートを取り覚えればよかったかもしれないのですが、大学院の研究は自分から疑問をもって解決策を自分で探していく積極性が期待されます。その際指導教員からのアドバイスが必要となるのですが、それに気がついていないとアドバイスに素直に従えないこともあり、指導教員との関係が悪化してしまいます。大学院に行って研究する意味をきちんと理解する必要があります。

【留学生相談室からのアドバイス】

大学院生であっても研究の意味がよくわからないままに入学してくることがあります。学部の延長線上に大学院を置いているように見受けられます。けれども大学院は「研究」をする場所なので、ただ「勉強」をする場所ではありません。自分から積極的にまだ解明されていないことを明らかにすることが大学院生には期待されていることを理解して大学院に進学しましょう。

(13) ゼミでの言語が理解できない事例：

Pさんはゼミのプレゼンで英語を使いましたが、日本人は答えを日本語で言いました。質問も日本語でしました。でもPさんは理解できないので、ただ笑うだけしかできませんでした。ゼミではいつもたくさんの方が日本語で質問していてスライドも日本語です。先日のゼミで指導教員がPさんに質問を下さいと言いました。でも日本語で書いてあるのでうまく質問できませんでした。なんとか日本語を理解したいので、1週間に1度日本語を取って頑張っています。

【解決策】

近年学位論文を英語で書く大学院留学生が増加しています。このような留学生は全く日本語ができないか、少しできるか、もしくは留学期間中に日本語を学習して少しでも日本語を理解しようと努力するというような場合があります。一方留学生がいる研究室でも近年様々な努力をして日本語ができない留学生も参加できるように工夫がされています。

例えば①日本語のゼミと英語のゼミに分けて留学生は英語のゼミにだけ出る、②日本人と留学生が同一ゼミに出る場合には、全員が英語を使う、③スライドやレジュメは英語で準備して、日本人は日本語でプレゼンを

し、留学生は英語でプレゼンをする、などの工夫がみられます。しかしいくつかのゼミでは現在でもすべてが日本語で行われているため、留学生は取り残されたという感覚を持つにいたっているようです。特に理系科目においてこれからは国際会議などで日本人学生も英語でプレゼンをすることが必要になることが予想されるので、普段から日本人学生も英語でプレゼンをするように練習していけば、留学生も理解できるようになり、ウィンウィンの関係になると思われます。

【留学生相談室からのアドバイス】

これからは日本語が理解できない留学生のいる研究室では、①、②、③のような何かの形で留学生にもゼミの内容を伝えるような努力が必要になるでしょう。また留学生のいる研究室にいる日本人学生も自分のこととして英語を使って発表する努力を今後する必要があるでしょう。

（14）不登校になった留学生の事例：

Qさんは研究室に行ってもゼミの発表ができませんでした。先生が配布する英語の資料がわからないし、ほかの人のゼミの発表もわからないのです。恥ずかしくて先生のところに聞きに行けなくなり、大学の寮に住んで毎日テレビを見て過ごしています。先生に呼び出されても行けませんでした。2年目でまったく単位が取れていないのですが、退学してもなんとか日本に住み続けたいと考えています。

【解決策】

不登校の解決は難しいです。Qさんの事例の原因としてはいくつかのことが考えられます。まず基本的な知識が不足していて授業についていけなくなり、自分の研究に対する評価を気に病むようになりました。そし

て自分とほかの人を比較して自分が劣っているのではないかと思い始めました。このような時点で勇気を出して留学生相談室を訪れてくれた時には、研究には様々な程度があって、最優秀でなくても自分なりの研究をまとめることに意義があることを伝え、きっとできるという勇気づけをすることで立ち直る場合もあります。しかし相談室を訪れることもなく自分の部屋に引きこもった場合には、うつ病などの病気を発症している場合も考えられます。この例のようにただ無為に毎日を過ごしていることもあっていずれは退学になってしまう可能性があります。

[留学生相談室からのアドバイス]

不登校を未然に防ぐには、留学生がまず入学許可を与えられる時点で学力と語学力を十分に持っていることが肝要です。またたとえ大学を退学したとしても、学生相談室や留学生相談室があることを忘れてください。友だちや先生には言えないことでも親身になって相談に乗ってくれますし、秘密は厳守されます。また不登校になっても日本に継続して居住したいと願う場合がありますが、大学を退学した時点で仕事を見つけていて就労ビザに切り替えができないのならば帰国しなくてはいけないことを理解している必要があります。

(15) 指導教員とのコミュニケーションがうまく行かない事例:

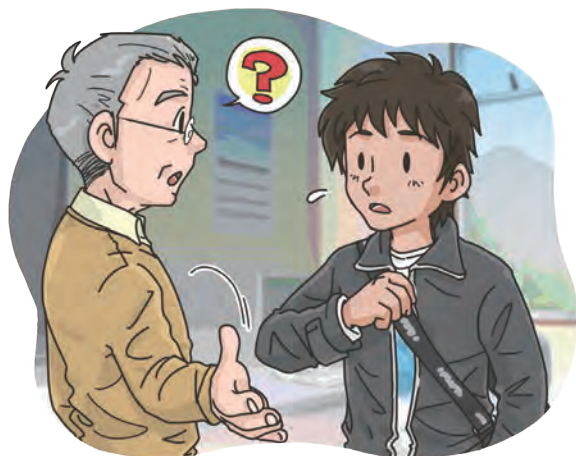
Rさんは指導教員とのコミュニケーションがうまく行かないと感じています。二つの論文を書いたのですが最初の論文は「新しくない」と指導教員の先生に言われ、次の論文はコメントをもらえませんでした。メールを送っても先生から返事が来ないので何事も自分で決めなくてはならず、自信がないと感じます。12月に三つ目の論文と博士論文を出さなくてはならないのですが、何も言われないのでモチベーションが上がリません。寝られないこともあり、胃が痛くなって潰瘍ができているとお医者さんに言われました。不安で仕方がありません。

【解決策】

Rさんにはよくある例として、夫が妻の作った料理がおいしければ何も言わないが、まずい時には「まずい」ということがあるという話をしました。これを論文の例に当てはめると、論文がある程度いいときには指導教員の先生は「いい」とは言わないのですが、よくない時に「新しくない」というコメントが返ってきたと考えればいいと話しました。さらに研究室にいる短期滞在の研究者の人からもアドバイスをもらうといいだろうという話をして、結局Rさんは無事に博士論文を書き終えました。

【留学生相談室からのアドバイス】

留学生はフィードバックがないと大変不安に陥ることが多いようです。けれどもフィードバックがないのは大丈夫だというしるしだとも言えます。ですからフィードバックがないからと言ってだめだと思する必要はありません。また周囲の人は留学生が安心できるように、留学生が発表したものに対してまず良かった点を述べて、そのあとで気をつけなくてはいけない点を言ってあげるといいようです。



(16) 指導教員から怒られる事例：

Sさんは指導教員の日本語がよくわからないと感じています。わからないので質問すると「勉強が足りない」と言って先生から怒られてしまいます。ゼミで英語を日本語に訳すと日本語がまずいと怒られますが、どこがまずいのか教えてもらえないし聞くこともできません。しばしば「このままでは卒業できない」と指導教員の先生に言われて、不安で眠れないことがあります。学生相談室にも相談に行ったのですが解決しません。コース長の先生に相談したら、我慢するように言われましたが我慢ができないと留学生相談室に来室しました。

【解決策】

Sさんにはもう一度コース長の先生に相談し、所属長の先生にもその後相談することを提案しました。結局その通りにして、研究室を変えてもらってSさんは無事に修了しました。

[留学生相談室からのアドバイス]

指導教員の先生から言われた言葉に傷ついたときには学生相談室や留学生相談室に相談に来てほしいと思います。各学部や課には相談窓口もあります。これらの場所では、留学生の皆さんの名前や相談内容は決して外部にもらしませんので、安心して相談することができます。

(17) 休学を考えている留学生の事例：

Tさんは博士後期課程3年を終えましたが博士論文をまだ書いていないので4年目の滞在です。学費を節約するために休学したいと思っています。

【解決策】

留学生は休学をすることができません。Tさんの場合学費を節約したいのならば単位取得満期退学をして母国に戻って学位論文を書き、その後日本で論文博士として博士号を取得するか、もしくは4年目も学費を払って課程博士として博士号を取得するかの選択があります。

【留学生相談室からのアドバイス】

留学生は休学できないという点はまだよく認知されていないことが多いので気をつけましょう。

出入国在留管理庁 (Immigration Bureau of Japan)

2019年4月1日より、入国管理局は廃止となり、出入国在留管理庁が設置されました。最新の情報は以下のホームページで公開されています。

<http://www.immi-moj.go.jp/index.html> (2019.12.27 確認)

おわりに

留学生の皆さんは日本で学位を取ることを目的に来日して、心弾ませる毎日を送ることを期待されていると思います。実際多くの東京都立大学の留学生が楽しく勉強や研究を行っていて、満足していると聞いています。しかし時には難しいことやどうしたらいいのかよく分からないことも留學生活では起ることもあります。そのようなときこそまずこの事例集を手にとってみてください。

なにか難しいことがあると、自分一人に問題が起っていると感じたり、自分が悪いのだと思ったりすることがあります。しかしこの事例集には今まで実際に起った問題を載せてありますので、自分一人ではないと安心することができます。またこれを読まれる方が日本人の学生さんであったり先生であったりする場合、留学生に起りがちな問題に対して理解を深めていただくこともできると思います。

留學とは新しい国の制度に入ってその制度に適応しつつ学位を取ったり授業やゼミに出席することです。軽々と異文化に入ることができる留学生もいますが、時には制度が理不尽だと感じたり、適応することに抵抗を感じたりする人もいます。異文化に入ったときにはどれがいいとか正しいとかというよりも、どんな風に違っていて、どんな風に合わせていけばいいのかを考えることが大事です。この小冊子が留学生や周囲の日本人の学生さんや先生方に読んでいただければ、その「どんな風に」という問題を一緒に解決してあげることができるのではないかと思います。東京都立大学の全ての留学生が楽しく留學生活を送られることを心よりお祈りしています。

本冊子は、2019年度部局競争的経費により発行することができました。ご支援をいただきました綾部真雄国際センター長をはじめ、廣田耕志部門長、野口昌良部門長に感謝申し上げます。

東京都立大学 国際センター
留学生相談担当 鈴木京子

留学生相談室（英語、中国語、韓国語、日本語での対応が可能です）

東京都立大学は南大沢、日野、荒川の3つのキャンパスで留学生相談室を開室しています。相談したいことがある場合は、下記のメールで予約を入れると確実です。

【相談予約メール】 ryugakusei@tmu.ac.jp

留学生のための主なサポート体制

国際センター・国際課では東京都立大学に在籍している留学生のために、様々な学修サポートや生活サポートを行っています。詳しい内容は下記のホームページで確認できます。

国際センター・国際課 学修サポート

日本語授業 (http://www.ic.tmu.ac.jp/study_abroad/jpclass.html)



国際センター・国際課 入国後の生活サポート

留学生相談 (http://www.ic.tmu.ac.jp/study_abroad/advisoryoffice.html)



留学生セミナー・異文化理解講座

(http://www.ic.tmu.ac.jp/ghrd/studyabroad_seminar.html)



留学生相談事例集

東京都立大学 国際センター 留学生相談室

鈴木京子・黄美蘭・加藤由香里・廣田耕志

192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1 国際交流会館

URL : <http://www.ic.tmu.ac.jp/>

2020年3月31日発行